

愛と同情とに生きようとする高潔な決心を確定し、そして自己の一身一家に關する一切の運命は皆自己の背負ふべき責任である事を自覺し、斯くして妻君を見られ、妻君に對せらるべき事のみです。そしてあなたさへ此の様な高潔な美しい心を持たれたならば、たとひあなたの妻君は醜くとも、少し位は病身であるとも、夫婦の愛情を阻害する理由にはならない筈です。容姿や健康の如何に依てのみ妻の價値を批判しようとする如きは、あなたの衷心に未だ眞に妻を愛する至情がない何よりの證據ではありませんか。

T——君

結婚は一生只一度と信じて居る私にとつて、離婚といふ様な事は問題にならない程です。少くとも問題にする事は恐ろしい事です。随つて私は

到底あなたの希望に添ふ様な答は出来兼ねます。只私は、「責任の自覺」といふ事を以て極めて重大な道德的價値を有するものであると思つて居る私は、あなたにしても少し「自己の當然の責任を自覺」して、他をのみ責めずあなた自身を一層十分に責められたならば、あなたとあなたの妻君をして悲劇の主人公となさしめずに済むかも知れないと思つて、自分の信ずる所を披歴したに過ぎません。言ひ過ぎた點は幾重にもおわび致しますから、只どうぞ一時の利己的打算や、眼前の苦悶を逃れるために、自らの生命の上に終生癒す事の出来ない悔恨の傷痕をのこす許りではなく、たとひ三年なりとも偕老の契を結んだ女性の生命の根を枯らす様な事のない様に祈つて止みません。

未だ色々申し上げたい事もありますが、目下私も子供も病床に臥して居

りますので、到底十分な御答が出来ませんでした。

「謙遜」を推稱するはよい。けれども、本當に自己の眞價を信愛する人の心の中に湧いた謙遜でなくては推稱に價する謙遜ではない。一層優強な自我を望む心の眼が現實我を正視したために感ずる現實我の劣弱性の自覺を源泉として湧いた謙遜でなくては推稱に價する謙遜ではない。随つてこの意味の謙遜は、一層大なるものを肯定せんがための否定であり、一層確實な信愛に到らんがための憎惡であり、一層充實した矜持を獲得せんがための羞恥でなくてはならない。取り入れることなくして安んずる心ではなくて取り入れれば取り入れる程益々多くを取り入れんとする神聖な空虚を感ずる心でなくてはならない。一言にすれば推稱する

に足るべき謙遜の心は、自ら造れる神に對して自ら祈り自ら齋く心でなくてはならない。

謙遜の心を知らぬ人の傲岸程空虚なものはない。破産の苦い經驗を嘗めた事のない人の人生讚美の歌程無力なものはない。——否定的要素が最も多分に含まれた肯定こそ最も大きな眞理である。この意味に於て、私は生活の苦楚を嘗め失意蹉跎の逆境に沈溺したことのない人の思想と生活とを輕蔑するものである。

自己の價値について自覺的であり意識的であるといふことは、少くとも意義ある生活の一條件であり一屬性でなくてはならない。けれども、

自覺的であり意識的であることが、意義ある生活の全體ではない、蓋し自覺乃至意識の主體は自我の一面即ち主として理知的作用であり、随つて其の對象となるものは自我の靜的方面、少くとも過去及び現在の自我の理知的に即ち現實的に明白な一面であり、そして斯くの如き一面を以て自我の全體とすることは、自我の將來の生成と伸展とを否定することだからである。この意味に於て、意識的乃至自覺的作用は、只一層大きな無意識的無自覺的なものゝ存在を豫想しその可能を象徴的に肯定し得る時に於てのみ價值あるものである。換言すれば、自ら意識し自覺することの出来ない程廣大な價值を有し強烈な成長力を有する自我こそ、本當に優強な自我である。自我の價值を意識し自覺するために力を用ゐた結果自我の内容が全く空虚になるやうな自意識や自覺は、自我を本當に成

長せしめる力ではなくて、寧ろ却つてこれを死滅に導くものである。意識すること自覺すること其の事だけが自我の價值の全體であるといふやうな、寒素な貧弱な形式的な自我は本當に偉大な自我ではない、この意味に於て價值ある自意識や自覺は、内容の充實した自我全體の力が出口を見出してその中核から自づと外面に湧き出し流れ出たものであつて、決して、無内容な自我の無力と空虚とをごまかすためにこの皮相面表面のみを飾るものであつてはならない。

生命が本當に充實すれば、自己の價值の有無大小を反省したり意識したりする餘裕などはなくなるであらう。精しくは、自己の價值に對する意識や自覺が其のまゝに確實な信愛の至情となり、安んじ、欣んで、只

一すぢに自己の最深要求の事實化のために全自我が冷たい熱に浮されながら、靜かに而かも騒々として直往邁進するであらう。

自己の天分に對する自信乃至自覺の有無といふことは、其の人の客觀的妥當性に對して直接には何等の關係をも有たないものである。若しそれが價值ありとすれば、それは只その人の自我乃至生活内容の價值を客觀的に高めて行く一つの原動力となつた時のみである。

「俺は強い」といふことをいはないでは寂寞と空虚と不安とを覺えるやうな人は勿論、かういふことを口にする事によつて安心を強め愉快を感ずる人でも、かういふことを口にするだけ、せずに居られないだけ、

それだけ未だ「強み」が幾分の眞實性を缺いて居るのである。——蓋し人間の本當の「強み」は、言葉によつて證明せられたり、増大せられたりするものではなくて、只人間の生活内容其のもの、即ち性格と思想と事業とによつてのみ證明せられもし、増大せられもするものだからである。

客觀的には絶えずより強くなりながら、主觀的にはいつも弱さを感じ、人こそ本當に強い人、少くとも本當に強くなり得る人である。

單に他人のことを氣にするだけでは他人を愛する心があることの證據とはならない。他人を氣にすると同時に他人に對する自分の責任を感じ

且この責任を果さうとする意志が動き出した時にのみ始めて他人を愛する心があるといふことが出来る。

自分の素質に似た、そして自分より弱小な味方を愛することは誰でも出来る。自分の素質に似て居ながら、自分と異つた而かも自分と同等位な価値のものを持つて居る味方を愛することも左程困難なことではない。自分の素質に似て居ながら、而かも自分より遙かに卓越する価値を持つて居る敵を愛することは、常凡人の容易に爲し得る所ではない。

愛せんとする意志がありながら十分に愛し得ないのは、「愛せんとする意志」が薄弱だからである。自我の中にこの意志を妨害するやうな要

素の介在を許すのは、未だ「愛せんとする意志」が全我的全人格的白熱的になつて居ないからである。「愛し得ざる悲哀」は「愛せんとする意志」の不充實不徹底の悲哀である。

偉大な天分を持つたものが自分の天分を恃んで怠慢になることよりも、貧弱な天分しか持たないものが、自らの貧弱な天分に慊らず自分の貧弱な天分に恥ぢて斷えず向上精進の道をたどることは、吾々から見れば、一層多く尊敬に價するものである。何故なれば、私は人生の精髓は「在る」ことにあるのではなくて「成る」ことにあると信ずるからである。「在る」ことの自覺に生きる人の心よりも寧ろ「あるべき」ことの自覺に生きる人の心の中に一層多く人間性の尊嚴と人間生活の悲痛

とを見出すからである。外から與へられたものよりも自らの手で造つたものを一層價值あるものとするからである。他との比較や他との戦よりも寧ろ自己の「在る」こと、「成る」こととの比較及び、自己と自己との間の戦を以て一層尊いものとするからである、生活の價值は、結果や事功のみにあるのではなくて、寧ろ過程と品性と意志により多くあると信ずるからである。

● 經驗は必ずしも性格を決定するものではない。否時としては全く正反對の結果を生ずることがある。たとへば、苦學の結果成功した人の中でも、自分が苦學したために苦學して居るものに同情して親切に世話をするものと、自分が苦學したために、全く苦學生などに同情のない人との

別があることや、或は、同じく嫁の時にやかましい姑で苦勞をした婦人でも、自分が姑となつて嫁に對するやうな時に嫁にやさしくする人と却つて厳しくする人との別があることなどは其の顯著なものである。

□ 「我が身抓りて人の痛さを知れ」といふ諺はあるが、我が身を抓つて痛さを感じずる人が、必ずしも本當は人の痛さを感じ得る人ではない。

□ 悲劇的な芝居や小説などを見て熱涙を灑ぐといふことが、必ずしも生きた人に對して同情が深いといふ證據にはならない。

□ 他人を對手にする戦は下である。自己を對手にする戦は中である。自

己の内にながらながらも自己を内在的に超越するより偉大なるもの——「天」でも「神」でもよい——を對手にする戦は上である。自己を全く超越するものを祈りの対象とするのは下である。自己の内にながらながらも自己を内在的に超越するより偉大なるものを祈りの対象とするのは上である。

□ 「これはあなたにだけお話するのでから誰にも言つて下すつては困ります」といふ様な念入の前置をして秘密や大切なことを人に話すやうな人に信用の置ける人が少いと共に、人から秘密を打ち開けられた時に、「決して誰にも話しませんから」と幾度も誓ふやうな人に信用の置ける人は少い。

誓はないでも背かない人の心、懇請しなくても信ずることの出来る人の心。

✓ ● 苟くも真面目に現実生活の意味を考へた人ならば、人生を以て圓滿完全な樂園と思ふものはあるまい。實に、真面目に嚴肅に生活すればする程益人生の缺陷と不完全とが明らかになつて行く。そして人生を以て缺陷に富み不完全に充ちて居るといふ明白な事象に對して、人間の取る態度の上に極めて極端な二つの相違——肯定的と否定的、積極的と消極的——のあることは興味深いことではないか。即ち人生は缺陷があり不完全だから愛と執着とを感ずるといふ一種の樂天觀と、缺陷があり不完全

だから厭離と失望とを感ずるといふ厭世観とである。だから單に樂天とか厭世とかの表面上の態度のみから直ちに人格なり生活内容なりの價値を判ずることは出來ない。事實に於て、同一の根據から前者の様な人生觀を取つたニイチエと後者のやうな人生觀を取つたシヨールペンハウエルとを比較して見れば、直ちに其の人格や生活の價値を批判し難いことがわかるではないか。要は、個人個人の性格氣質境遇好みなどが、この二つの型の中の何れか一方に片寄せられるのである。そして私自身の思想は、人生は缺陷に富み不完全に充ちて居るからこれを愛しこれを改造しなくてはならないとしたニイチエや、人生には自由の餘地が少いからこそ一層多く自由に對する盡惑と興味とを感じさせられるとするシラーや人生には人間の改造や創造の餘地があるからこそ面白いのであるとするジエ

ームスやの思想と同様、厭世觀を根柢とした樂天觀即ち改善本位の人生觀に傾くものである。實は私にとつては、眞面目に嚴肅に生活すればする程益人生の缺陷や不完全が明白になつて行くと共に、倒まに、人生の缺陷や不完全を明らかにすればする程、愈人生に對する執着と信愛との念を増して行くのである。そしてこの一見逆理ブラドキンカ的な心理現象の根柢となるものは、「人生」といふものを「自己」を、精しくは「自己の努力」を離れて全然客觀的に見るのではなくて、寧ろ自己乃至自己の努力を中心として見ることである。即ち自己の獨自の價値を信じ自己の努力の効果の可能を豫想すればこそ、更に言ひ換へれば、自己の努力の結果として生ずる「人生の改善」を希望し且つこれを信ずればこそ、不完全に充ち缺陷に富んだ人生に於いていつまでも不如意な生を持續することが

出来るのである。一言にすれば、客観的な人生そのものに執着することでもそれを信愛することでもなくして、實は寧ろ自己其のものに執着し自己其のものを信愛することなのである。この意味に於て、嚴肅な生活の肯定者は、即ち悲觀的樂觀主義者、奮闘主義者、乃至改善主義者は、最も高い意味に於て個人主義者であり、主我主義者でなくてはならぬ。

憎惡の極から生れた愛、否定の極から生れた肯定、悲觀の極から生れた樂觀、懷疑の極から生れた信仰、戰の極から生れた平和、そして個人主義的精神の極から生れた人道的精神。

通例には「眞理は兩極端の中央にある」といふ。けれども、私は寧ろ「生きた眞理は本當に極端なものの中にある」といひたい。そしてこの意味に於て、私は所謂中庸を憎み折衷を憎み妥協を憎み調和を憎み平凡を憎み穩健を憎み平和を憎むものである。

詠歎する人はある。落涙する人はある。溜息を吐く人はある。腕をさする人はある。絶叫する人はある。嗚咽する人はある。——併し、四肢五體五感が沈黙し靜止する程迄に全生命の感激を経験する人は洵に少い。死するとも悔いざる程の強烈な感激を経験する人は洵に少い。

對象から離れて見る客觀的態度は、只本當に十分に對象を愛する時に

のみ出来ることである。離れる力に愛の倫理的意義がある。離れるのは対象の自由を尊重するためだからである。確實に所有せんとし、密接に執着せんとしながら而かも對者の自由と幸福と尊嚴とを損傷せざらんがために離れる所に、本當の愛の悲痛にして盡惑的な味がある。眞の愛の心は、やがて即かず離れざる心——離れて即く心でなくてはならない。突き離して抱く心でなくてはならない。

弱者を虐げることとを以て強者のほこりと信じて居るものもある。併し本當の強者は、弱者をいたはり憐れむことを以てほこりとしなくてはならない。

如何なる弱敵を搏つにも全力を用ゐるといふ獅子の心は、獅子の態度は、若し本當ならば、洵に尊敬に値するものである。草履取りの職にあつても關白の職にあつても同様に自己の最善を盡した豊臣秀吉の心は、豊臣秀吉の態度は、若し本當ならば、たしかに推重に値するものである。

封建時代に、財政上の大官を任命する時に、馬鹿げた程簡単な加算の問題を與へて其の人物を試みた人の心と、其の馬鹿げた程簡単な問題に對して、丁重にもわざ／＼算盤を弾いて解答を出した人の心とは、共に等しく私にとつてなつかしみの深いものである。

他人を喜ばすことは容易い。けれども他人の喜びを本當に自分の喜びとすることは決して容易なことではない。

□ 英雄主義と凡人主義との争は古來絶えぬ所であるが、これは理論上の問題よりも、寧ろ主義を懷抱する人の性格上の問題である。そして議論としては兩方共に極端なものは成立しない。蓋し英雄と凡人とは相對的の名辭だからである。但し私自身は凡人主義の底から湧いて出た英雄主義を理想とするものである。これやがて私が所謂個人主義の境致に止ることが出来ないで更に其れから一步を進めて人道主義者となる所以に他ならない。要するに私は英雄や天才に憧れて居る。けれども自ら凡人たる自覺を有する私は凡人を出来るだけ十分に包括し得るやうな偉大な性

格を持ち、凡人の幸福を高めることの出来るやうな偉大な事業をするものを他にして英雄を思ふことが出来ないのである。凡人であらうが何であらうが、凡そ一切の存在には各自の價値があるといふ信念を否定することが出来ないものである。

■ 自分と他人との交渉を、出来るだけ虚偽から遠ざけたいと思つて居ながら、毎日のやうにこの要求を裏切るやうな言動許りして居る自分の意氣地なさを思ふと、私は只もう情なくなる許りである、そして、自分を自分の最深要求から裏切らせるやうにしたり、或は自分を虚偽なものとしたりさせる原因となつたものは、さうしなければ命にかゝはるといつたやうな重大なことではなくて、大抵は、少しの勇氣と誠實とさへあれば、

容易く排拒することの出来るやうな、極めて下らない因襲や惰性或低劣な要求の擒となつた結果であることを自覺する毎に、一層痛切に自分の不誠實と怯懦とを悲しまずには居られない。

殊に、私にとつて最も悲しいことは、自分に最も近い妻に對してさへ、十分な意味で虚偽のない交渉をすることが出来ない。否時としては、何人に對するよりも罪の深い虚偽を懷いて居ることさへあるといふことである。四六時中一つ家に住み、一身同體といつたやうな關係を持ち、表面的には、全人類の中で最も親密な交渉をして居ながら、相互に永久に打明けることの出来ないやうな秘密を胸奥にいだいて、而かも平氣で愛するとか愛されるとか、利害禍福を共にするとか、生命をも惜まぬとかいつて居る世の常の夫婦關係といふものを考へると、私は人間といふもの

淺間しさに戦かすには居られない。あゝ、全人類の中から選ばれた只一人をすらも本當に愛することが出来ず、「最愛の者」として相互に信じ合つて居る人となさへ戦慄や苦悶を感ずることなしには、眞理の扉の前に立つことが出来ないやうな罪障の多い身でありながら、世道人心のため努力するとか、博愛慈善のために骨を折るとかいつて騒ぎ廻つたとして、其れが其の人の本當の生活に對して何の役に立つであらうか。社會に出ては仁者義者の様に振舞つたり、道德や人道の權化の様に装つたりしながら、家庭に入るや否や動物に近い「暴君」となつてしまふやうな人ばかり多い今日に於て、本當の意味の道德や人道や愛の力が容易に具現されなかつたり、人間生活が容易く高められなかつたりすることは、洵にいたましい當然事であるといはなくてはならない。

吾々をして極言せしめるならば、社會生活其のものが一個の虚偽である。少くとも一個の「芝居」である。即ち、其處では本當の人格の力乃至自我の純真性——人間性の核心といふものが容易くは十分に現はれないで、寧ろ其の皮相面であり、末梢的部分である「藝」の巧拙のみが顯著に現はれる。勿論、社會生活に於ても、本當の人格の力といふものは知らず識らずの中に現はれはするが、否、人格の力乃至人間性の核心といふものは、只嚴密な意味の社會生活の中にのみ具現されるものではあるが、通例の社會生活の中に現はれる人格の力は、要するに、芝居に於て役者の「人間」が、「藝」を通じて知らず識らずの間に現はれると同様に、社會生活といふ「藝」を通じて仄かに臆げに現はれるに過ぎないのである。随つて、吾々が、この間にあつてどれ程真劍になつて虚偽でない交渉をしよ

としても、それが既定の社會組織とか舊來の風習とかいふものゝ土で行はれる限りは、第一に先づ其の組織や風習に適應するための努力——多くは自己の最深要求を裏切るやうな——をした上で、自分の持つて居る「眞實」を表現しなくてはならないから、どうしても本當の自分といふものを赤裸々に表現することが出来ない。けれども、これに反抗して自己の最深要求乃至純真性を出来るだけ十分に實現するといふことは、中々容易に出来ることではないから、大抵は虚偽とは知り乍ら、自己の本當の要求を裏切るやうになるのである。そしてこの社會生活といふものに屈従し没頭して居ると、役者が舞臺の上の生活のみが本當の自分の生活であると思つて居ると同様に、社會とか人道とかいふやうな大仕掛なそして外面的なものゝために努力することのみが本當の自分の生活であると

思ふやうになり、そして遂にはこれと、本當の自分の生活の間には、架橋することの出来ない二元生活乃至分裂生活の悲境に沈湎しなくてはならないやうになるのである。

但し、人間といふものはどうせ不完全なものだとか、人生といふものはどうせ虚偽づくめなものだとかいつてあきらめられる人は、この二元生活の苦悶を苦悶としないであらう。そして、役者が懸命に自分の舞臺上の藝道のみを勵むやうに、社會生活といふ生活の藝道のために専心努力するのであらう。けれども、これだけ多い人間の中で、せめて只の一人でもよいから、虚偽を挾まない赤裸々な交渉をしたい、そしてその二人の眞剣な交渉の間に創造された「眞理の王國」乃至「愛の乾坤」に住むことに依つて、人間性の缺陷と人間生活の不完全から來る悲哀と寂寞と

を堪へて行きたいと要望して居るものは、このやうなよい加減な不徹底な分裂生活に安んじて居られる筈はないのである。少くとも、確實に自分自身の自由になる獨自な生活内容を所有したいと望むものにとつて、何等の虚偽をも挾むことなしに赤裸々に交渉することの出来る他人を、只の一人でも持つて居ないといふこと程寂しいことはない。そして人間生活の中で、最も密接な、最も深味のある、そして最も赤裸々な交渉をすることが出来るやうな關係に置かれて居るものは「夫婦」でなくて何であらうか。

然るに既にいつたやうに、或る意味では、夫婦の間程秘密の多い、随つて虚偽の多いものはないといつてもよい程である。そして、一般の人々は、此の極めて重大な問題を度外視し乍ら、愛を讚美したり、道徳

を高調したり、生活の革新を企てたりして何等の煩悶も感じないとは、何といふ悲しい矛盾であらうか。少くとも、私自身は昨今痛切にこの悲しい矛盾に苦しんで居るものである。正直の處、私は、この點から見て只の一日でも心に羞恥と苦悶とを感ずることなしに自分の家族をまともに見る事が出来ない。換言すれば、私は正しい意味でヒューマニストになりたいといふことを朝夕思念して居ながら、只の一日と雖も弱者たる自分の妻子や其の他の家族などに對して、十分な意味でヒューマニスティックな心持や態度を持ち得る時はないのである。勿論、私とても、社會生活といふものの中で、假面を冠つたり紅粉を施したりして芝居をするやうな具合に、一家の中で虚偽の振舞をすることは極めて容易いことである。けれども、毀譽褒貶とか、其の他の低級な欲望や興味を根柢とす

る芝居氣を全く離れて、自分自身で、本當に衷心から首肯することが出来るやうな、即ち寸分の虚偽を交へないやうな生活に達するまでには未だ前途が遠いのである。けれども、それは恐らく私一人のみの缺點ではあるまい。或は人間性其のもの、缺陷であるかも知れないが、そしてそれが寧ろ私に最も痛切に悲哀を與へる所以であるが、少くとも吾々をして「真理の王國」から遠ざけしめるやうにする主因は、本來真理と愛との搖籠であるべき筈の家庭生活が、これ迄真理の唯一屬性である「嚴肅性」といふものゝ力を恐れて、却つて逆まに姑息偷安の所有者たる「虚偽」の棲家とならしめて居た結果として、人間を嬰兒の中から虚偽の雰圍氣のなかに閉ぢ籠めて置いたためであることは疑ひない。

随つて、人間生活をして、本當に赤裸々な個別的交渉であり、本當に眞

剣な「愛の闘争」であらしめるためには、第一に先づ其の基礎たる家庭生活の虚偽を打破しなくてはならない。少くとも、私一人は、社會の一員として價値ある地位を占める前に、少くとも其れと同時に、私一人を生命として居る憐れな我が妻の「夫」として、かよはい我が子の「父」として、乃至はその運命の一半を托して居る、我が家族の「主」として、即ち家庭の一員たる「人間」として、虚偽を感じ羞恥を感じ苦悶を感じなくてもよい程の充實した生活内容を得たいと思ふ。そして、この根柢の上にしつかりと立つことが出来るやうになつた時にのみ、私は本當の意味でヒューマニストを最も大膽に名乗ることが出来るのであると思ふ。

心の叫 終

大正五年貳月廿四日印刷

大正五年貳月廿七日發行

心の叫

正價金九拾五錢

著者 稻毛 詛 風

發行者 東京市神田區表神保町七番地 阪本 眞 三

印刷者 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 青柳 十 一郎

印刷所 東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地 株式會社 秀英舎 第一工場

不許複製



發行所 東京市神田區表神保町七番地 振替口座貯金東京八七貳番 大同館

●東京第一高等師範學校教授三並良先生譯
最近肖像入

オイクエンの人生の意義と價值

▲菊判上製美本全壹冊 正價金壹圓五拾錢郵稅金十二錢
舊世界觀は倒れたりさ雖も新世界觀は未だ確立せず思想界は紛亂し人間はその歸趣に迷はんとす是れ實に現代の煩悶にして精神界一切の病源なりオイクエン博士が其の獨特の見地より此の大問題の解決を試みたるものを本書とす由來博士の所説は難解なりとの評ありと雖も本書の如きは決して然らず譯筆又平明流暢なりオイクエン哲學の眞髓を知り人生問題を解かんとする者は之れを繙かざるを得ず

文學博士波多野精一序野村隈畔新著 肖像入
文學士内ヶ崎作三郎

ヘルグソンと現代思潮

▲菊判最上製美本全壹冊 正價金壹圓參拾五錢郵稅金八錢
本書は事らベルグソンの思想を中心として現代の哲學及生活の梗概を述べたものであるだけに獨りベルグソン哲學の特色と價值とを學び得るのみならず廣く哲學的思想を解する上に於ても亦妙なからざる價值がある我々は此書を廣く江湖に薦めることに躊躇しない。……新人評……

東京市神田區 大田同發行 振替東京 貯金七二八番 座口金貯替振

本間久雄氏新著 ■四六版 金九拾錢 郵稅八錢 エレンケイ思想の眞髓

婦人問題！ 貞操問題の喧傳今日萬人必讀の書

現時に於て最も華々しい世界的の名聲を博しつつある女流思想家の第一人は我エレンケイ女史である。女史は最も熱烈に戀愛を高調し戀愛中心の結婚を主張し同時に戀愛のなしい結婚生活に向ふて「自由離婚」を主張せる性に對して最も大膽なる舊道德の破壊者であり最熱烈なる新道德の建設者たると共にあらゆる意味に於て所謂「婦人運動」の最新傾向を代表せる人である。そして此女史の思想と人物とを最平明に簡潔に最も味ひ深く書たるものは本書である。

正價金 壹圓廿五錢 郵稅八錢
羽太著 銳治著

性慾教育の研究

■ 刊 新 最 ■

東京 神田 大田同發行

■ 第三版發賣 ■

稻毛 詛風氏著 (最新刊)

青年教師の歩める道

四六版 上製 美本全壹册 正價壹圓拾錢 郵稅八錢

「教育界の謀反者」として斷然教職を放棄し刻苦勵精以て今日に到れる著者が教育者の生活と教育界の現狀とを觀て感奮措く能はず遂に六ヶ年に互れる教師生活の全部を披瀝したるものは本書也。多感にして俊銳なる青年田舎教師が暗澹たる家庭と荒涼たる社會との間にあつて如何に自己の眞實のために力爭苦闘懊惱したるか深刻にして赤裸々なる告白的叙述が如何に從來隠されたる人生の一斷面を闡明したるかは乞ふ來りて本書を見よ。

稻毛 詛風 著 生の創造と道德

四六版上製 金壹圓 郵稅八錢

●著者が最近に於ける眞實なる生活の記録——

東京 神田 大 同 館 發 行

■ 第五版發賣 ■

稻毛 詛風氏著 (好評激甚)

現代教育者の眞生活

四六版 上製美本 全壹册 金九拾五錢 郵稅八錢

本書内容は第一編に於て囚はれたる教育者を罵倒して學力の淺薄素養の貧弱を罵り悲惨なる生活狀態を詳説し此の愁むべき現狀を打破すべく執筆を振ひ第二編には教育者の現實生活の改善より説き人生の意義を論じ活教育者の活修養の必要を詳叙し經濟生活の改善策を提げて天下に唱ふる所あり第三編には眞生活實現の爲め精神的肉體的に其改善の方法を天下に訴ふる事を掲ぐる等眞面目なる青年教育思想家の著者なれば言々熱火を生じ教育家の長所短所を赤裸々に論評して遺憾なし教育家が参考として一讀せば多大の暗示を得るや必せり。

東京 神田 大 同 館 發 行

東京帝國大學文科助教授 宇野哲人氏著 (好評噴々)

支那哲學史講話

菊判最上製本
金壹圓五拾錢
郵税金十二錢

本書は上古より清末に至る迄の支那思想の概要を極めて平易簡明に叙述して最もよく要領を盡くせるものなり。特に清朝に於ける學術思想の變遷が如何に暗々裏に革命を惹起するに至りしか、支那の新人の思想は如何なる傾向を帯ぶるか、は著者の最も留意せし所に於て從來世に行はれたる支那哲學史の缺陷は本書に依て補足せられて亦遺憾なし、本書は又附録として一々原文を掲げて直ちに堂奥を窺ふの便に供し亦著者の議論の根據あるを知らしむ。要するに初學者にも専門家にも座右に缺くべからざる絶好の新著なり。

宇野哲人著

支那文明記

正價
壹圓廿錢
郵税金八錢

大 同 館 發 行

第三版發賣

早稻田大學講師 吉田絃二郎氏新著

生の悲劇

四六判上製
正價
金壹圓
郵税金八錢

退去を知らず、未來を知らず、たゞ現實の靈と現實の肉とのみ彼れの生命の凡べてを燃焼せしむることを允されたる者にとりてはそれが暗であらうと悲哀であらうと、たゞ現實を貪り、現實を懐しみ現實を慈しむの心その他には何の希望もあり得ない。人間に與へられた運命が暗い淋しいものであるとしても自分はそれを呪はない。それが自分の生に對して與へられたる唯一のものであることを想ふ時に私は一層その不具なる人類の運命を感はずには居れない。

(著者の感想より)

文學博士姉崎正治
文學士鈴木宗忠 著

信教の自由と學問の獨立

正價
壹圓廿錢
郵税金八錢

東京神田 大 同 館 發 行 表 神 保 町 七

■ 感想と小品と逸話 ■

上司小劍氏著

四六判
最上製

金七拾五錢

郵税
八錢

小ひさき窓より

小品六拾餘篇藝術家として著者の眼に映じた自然や人生の批評でもあり、思索と感興とが生れた感想録でもあり、また日常生活の一面を誇る眞實の小さな零の集りであるとも云へる柔らかかな言葉の中に牢乎たる個性の閃めきがあり、理智的な冷い觀照の中に醇化された優しい著者の性情が流れもしてゐる翫賞するに餘りあり。

（文章世界）

文學士 西澤富則氏著

（好評激甚）

歐洲文藝界の逸話

四六判
壹圓廿錢
郵税
八錢

苟くも文藝を語らんとする程の人の必ず讀まねばならぬものであらうとの世評を受けし逸話集は本書なり。

東京大館發行 神田

71
846

9.12.2

THE
LIBRARY
OF THE
MUSEUM
OF
COMPARATIVE ZOOLOGY
AND
ANATOMY
OF
THE
MUSEUM OF
COMPARATIVE ZOOLOGY
AND
ANATOMY

終

